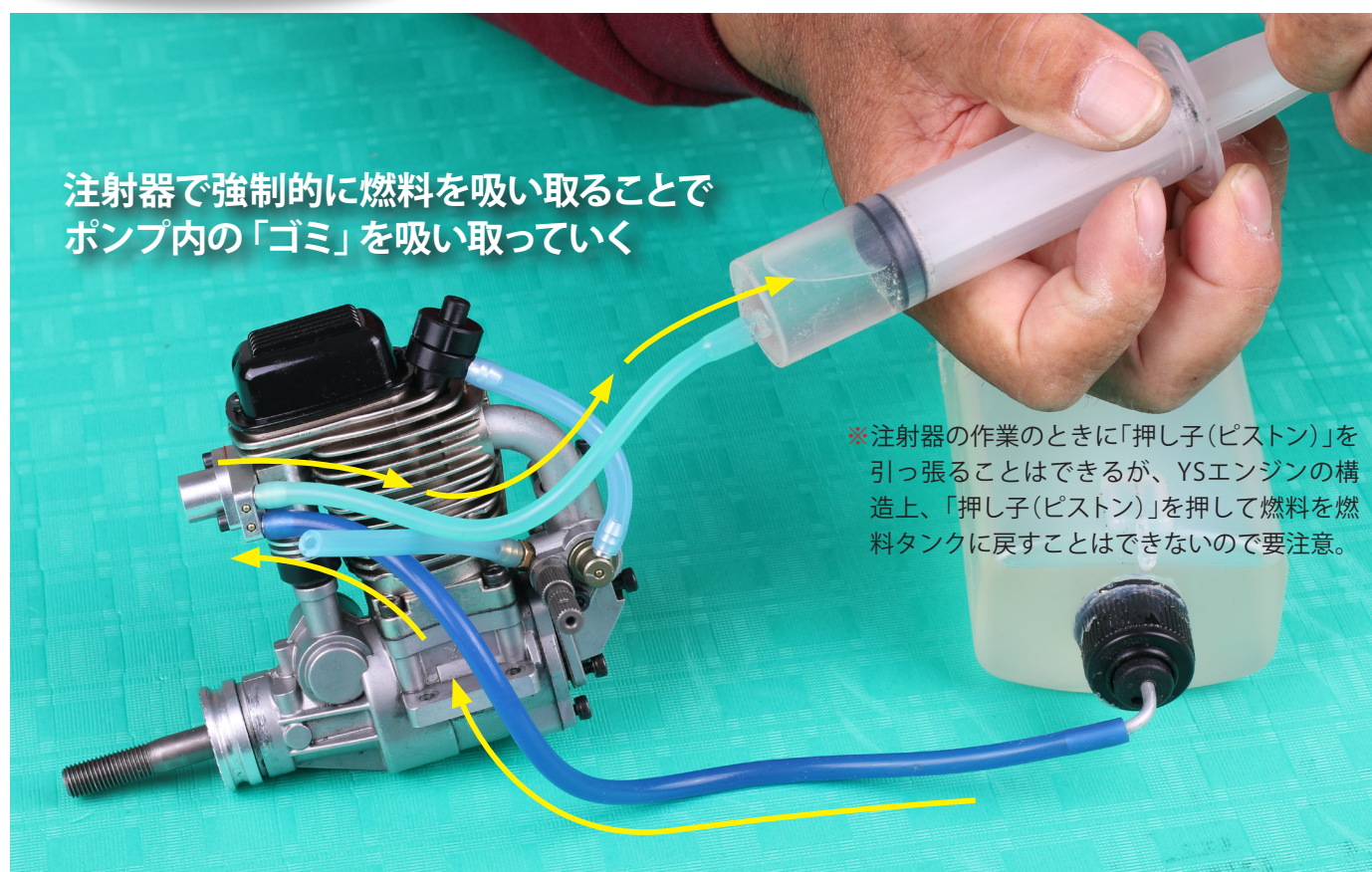


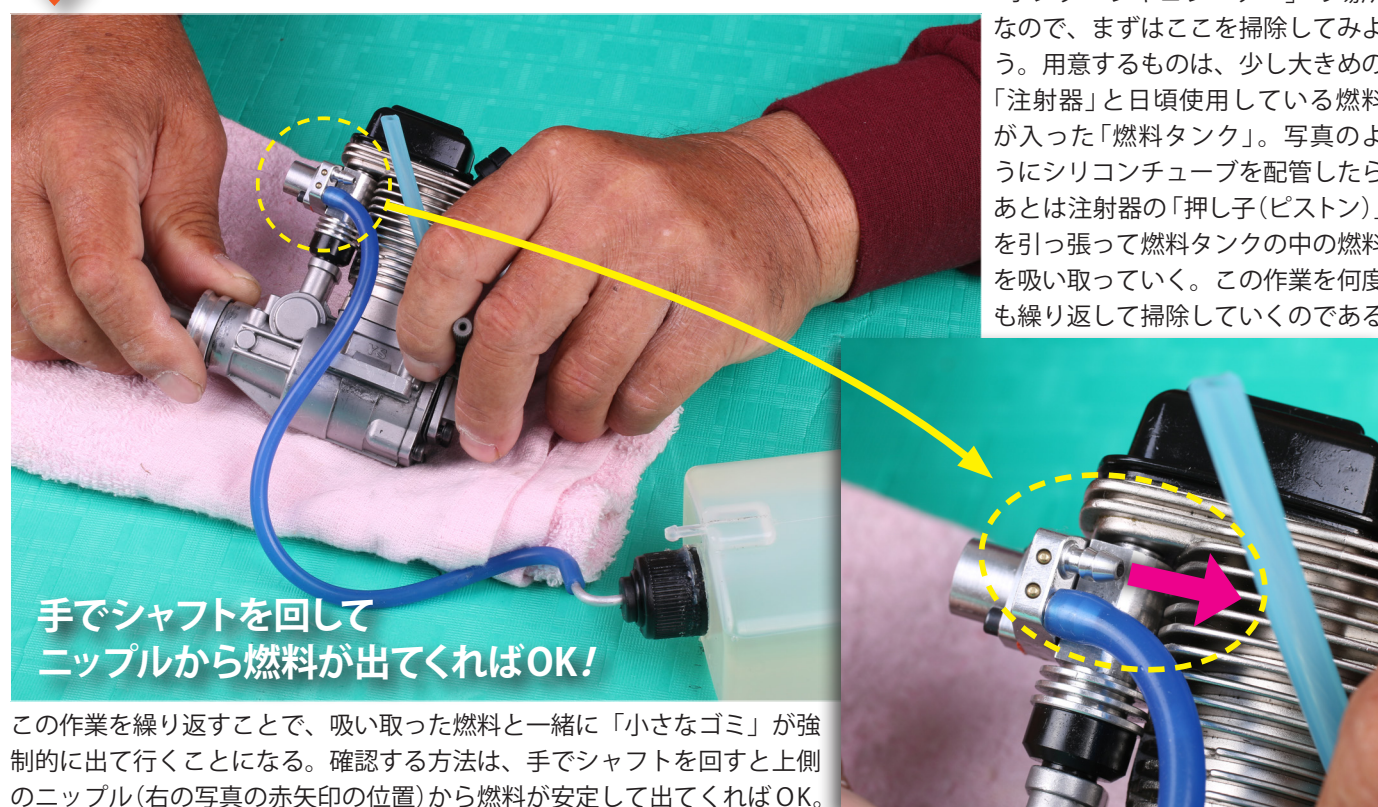
ゴミ取り方法① 一番簡単なゴミ取りは「注射器で吸い取る」方法



注射器で強制的に燃料を吸い取ることでポンプ内の「ゴミ」を吸い取っていく

※注射器の作業のときに「押し子(ピストン)」を引っ張ることはできるが、YSエンジンの構造上、「押し子(ピストン)」を押して燃料を燃料タンクに戻すことはできないので要注意。

注射器に「燃料」が流れてきたら「ゴミ」が取れていることを確認しよう

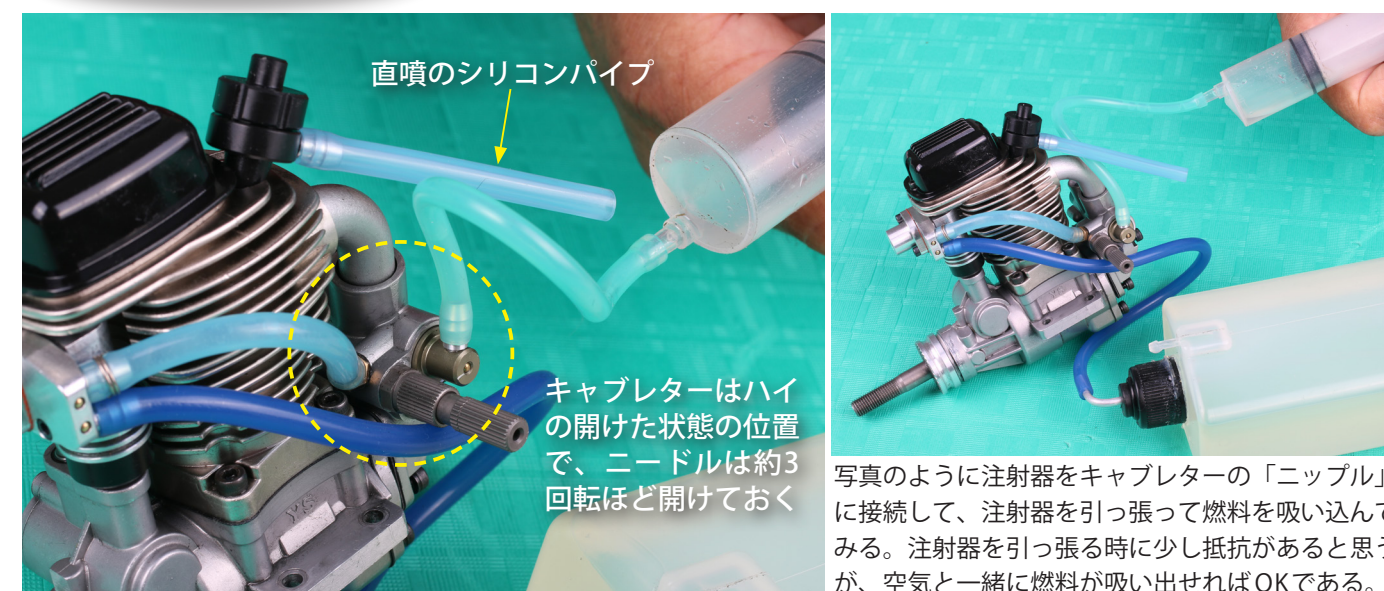


手でシャフトを回してニップルから燃料が出てくればOK!

この作業を繰り返すことで、吸い取った燃料と一緒に「小さなゴミ」が強制的に出て行くことになる。確認する方法は、手でシャフトを回すと上側のニップル(右の写真の赤矢印の位置)から燃料が安定して出てくればOK。

エンジンの調子が出なくて困っている場合、まず最初に「ゴミ取り」の作業を行ってみる。エンジンの中に燃料が最初に入っていくところは「ポンプ〜レギュレーター」の場所なので、まずはここを掃除してみよう。用意するものは、少し大きめの「注射器」と日頃使用している燃料が入った「燃料タンク」。写真のようにシリコンチューブを配管したら、あとは注射器の「押し子(ピストン)」を引っ張って燃料タンクの中の燃料を吸い取っていく。この作業を何度も繰り返して掃除していくのである。

ゴミ取り方法② ポンプの次は「キャブレター」の掃除をしよう



直噴のシリコンパイプ

キャブレターはハイの開けた状態で、ニードルは約3回転ほど開けておく

写真のように注射器をキャブレターの「ニップル」に接続して、注射器を引っ張って燃料を吸い込んでみる。注射器を引っ張る時に少し抵抗があると思うが、空気と一緒に燃料が吸い出せればOKである。

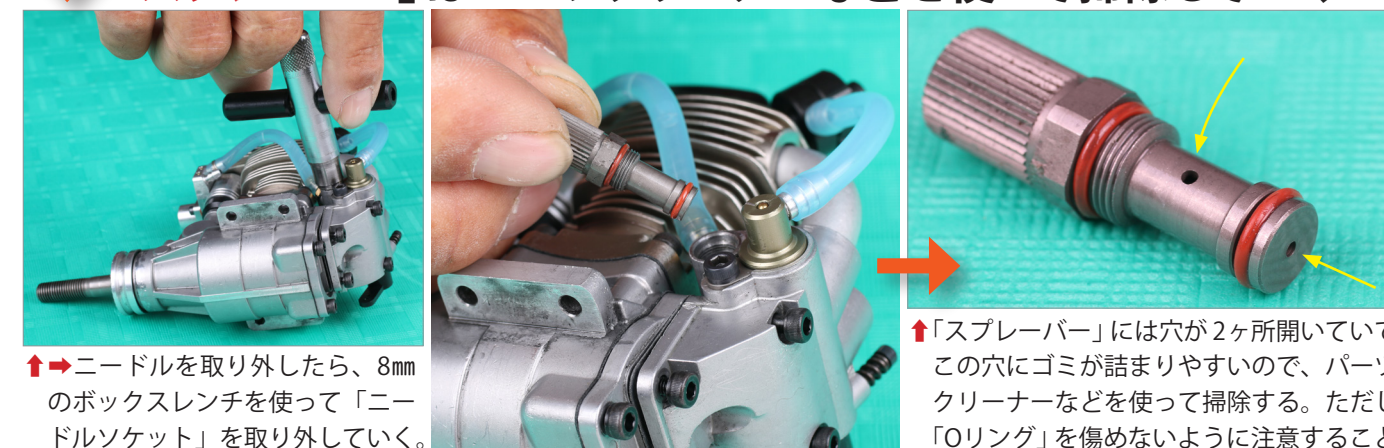
エンジンヘッドに繋がっている「直噴」のシリコンパイプを外しそこに注射器のシリコンパイプを挿し込んで「燃料」を吸い込んでみる

何度か繰り返してみたが「燃料」が出てくる気配はない。その場合は「スプレーバー」を疑ってみる



エンジンの「ポンプ部分」の詰まりを最初に掃除して、次に「キャブレター」に注射器を接続し、燃料の吸い出し作業を繰り返して掃除を試みたが、エンジンの調子がまだ良くならない。このような場合、次に「スプレーバーの詰まり」を疑ってみよう。ニードルソケットを取り外すために「ニードル」を外し、8mmのボックスレンチを用意する。

「スプレーバー」はパーツクリーナーなどを使って掃除していく



↑→ニードルを取り外したら、8mmのボックスレンチを使って「ニードルソケット」を取り外していく。

↑「スプレーバー」には穴が2ヶ所開いていて、この穴にゴミが詰まりやすいので、パーツクリーナーなどを使って掃除する。ただし、「Oリング」を傷めないように注意すること。

※パーツクリーナーは「Oリング」などのシリコン製品を傷めてしまうので、取り外して掃除するのがベストだ